

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：24011

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇学校全体で「最後まで主体的に学び合う ねばり強い子の育成」を目指し、日々の授業、学年・学級での取組、子どもや保護者へと関わった。児童アンケートから「最後まで粘り強く学習に取り組んでいる」という項目に対して、肯定的な回答の割合が高かった。</p>
	<p>◇札幌市共通指標から「自分の意見を進んで発言しようとしている」「自分で計画を立てて勉強している」の項目に対して、否定的な回答の児童が多い。 ◇課題解決していく上で、子どもたち同士が関わり合ったり、考えを深め合ったりする姿には至っていない。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市共通指標において「人のよいところを見付けようとしている」という項目に対して、肯定的な回答が多かった。しかし「自分が必要とされていると感じる」という項目に対しては、肯定的な回答がやや低い。互いのよさを分かり合い、他者から承認される経験を積ませたい。また、子ども同士の関わりで授業が進んでいくように、日々の授業の中で交流の場を設定していくことが必要である。</p>	
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <p>◇主体的に考え行動する子 ◇友達との違いや多様な考えから学ぶ子 ◇繰り返し取り組み、学びを確かにする子</p>	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>◇子ども主体の授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【見通し】 課題に対して「何を、どのように、誰と学ぶか」を自ら選択・決定する場面の設定 ・【本物の体験】 地域や企業と連携した実社会と繋がる学習の導入 <p>◇多様な考えを認め合い、生かす授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【対話】 ICTを活用した思考の可視化（ムーブノート等）による、瞬時の意見共有と対話の深化 ・【深まり】 「自分と違う考え」を歓迎し、それを取り入れることで自分の考えがどう変わったかを自覚させる指導 <p>◇学びを確かなものにする振り返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる「感想」で終わらず、「何ができるようになったか」「次の課題は何か」を言語化する習慣化 ・【反復】 振り返りを基に、もう一度トライする「解き直し」「書き直し」の時間の保障
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>◇教師主導から児童発信の取組へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会・委員会活動における「前年度踏襲」の見直しと、課題解決型の活動へのシフト ・【挑戦】 失敗を許容し、「まずはやってみる」ことを称賛する校内文化の醸成 <p>◇児童の「～したい」を形にする仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さっぽろっ子会議」のような、学級や学校をより良くするための提案箱やプレゼン機会の設置 <p>◇話し合い活動の質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を否定せず、肯定的な反応（うなずき、拍手、付け足し）から始める「聴き方・話し方」のスキル指導 <p>◇縦割り活動の「役割」と「あこがれ」の連鎖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上の学年が下の学年に教える「ミニ先生」体験や、下級生からの「ありがとうカード」による承認の循環
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールによる考えの可視化と、リアルタイムな意見共有・比較 ・動画・音声・スライド等、個の強みを生かした多様な表現（アウトプット） ・AIドリル等の即時フィードバックを活用し、自分に合った学び方の選択・反復 	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	【一人一人の教職員】	【学校全体】	次年度へ
<p>◇本プログラムの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議 ・学級懇談、学年懇談 ・小中一貫分科会 	<p>◇日常の授業・教育活動</p> <p>◇各自の研修</p>	<p>◇実践交流（全校研）</p> <p>◇校内研修</p> <p>◇子どもの育ちの共有</p>	<p>◇学校評価</p> <p>◇成果と課題の共有</p>